

危機管理における校長のリーダーシップ

細谷 直樹 (山形市立村木沢小学校)

1 はじめに

子どもたちが安全で安心な環境を整えるのは大人の責任である。しかし、近年、子どもたちを取り巻く環境は急変し、子どもの命や心を脅かす事故や事件が発生している。学校において、様々な危機に対応し、安全・安心な学校づくりを行うことは校長の重大な役割である。

2 研究の概要

(1) 研究のねらい

- 危機管理に対する教職員へのアンケート調査を行い、その傾向を校長の学校経営に生かし、各校の危機管理能力および全職員の危機管理に対する意識の向上を図る。
- 安全の中核となる教職員を育てながら、危機管理体制を整え、事故の未然防止を図り、適切な事故対応が出来るようにする。

(2) 研究の方法

- ◇1年次 (平成30年度)
 - ・研究の概要と方向性の協議
 - ・アンケートによる危機意識調査
- ◇2年次 (平成31・令和元年度)
 - ・県スポーツ保健課の講話
 - ・アンケート分析及び提言まとめ
 - ・各校実践と校長会での情報の共有化
 - ・中核教職員危機管理研修会の実施
- ◇3年次 (本年度)
 - ・検証と研究のまとめと共有

3 研究の内容

(1) アンケートによる教職員の実態把握

全校長・教頭各38名、及び小・中・大規模学校を網羅した抽出8校の教職員の危機意識を調査した。危機意識には、職の違いや経験、学校規模で違いがあることがわかった。

(2) 危機管理に関する提言

アンケート調査、及び県スポーツ保健課課長補佐 渡邊隆氏の講話をもとに、校長会で4

つの提言をし、各校で課題解決に向けた実践を積み上げて行くことにした。

(3) 中核教職員危機管理研修会

令和元年7月19日 実施 講師、県スポーツ保健課 佐藤 大輔氏 参加者 8名

(4) 各校の実践

- ・学校安全計画、危機管理マニュアルの改善
- ・有事に備えた下校訓練・引き渡し訓練
- ・通学路安全推進、地域との連携
- ・ヒヤリハット集の作成・活用 等

(5) 情報の共有化

生徒指導部で、月1回、各校で起きた不登校やいじめ、虐待など生徒指導アンケートを行い、問題解決に向けた対応や課題を話し合い、情報の共有化を行っている。加えて、危機管理に関する各校の対応や実践を調査し、校長会で報告し、教頭にも伝達した。

4 成果 (○) と課題 (●)

- アンケートの結果を分析し講評共有することで、各学校の実態に応じた改善策を具体化し取り組むことができた。
- 各校長のリーダーシップの下、学校安全の中核となるミドルリーダーを育て、組織的な学校安全体制を行うことができた。
- 情報の共有を図ることで、危機管理に関する校長・教頭の経験値を高めることができた。
- 教職員一人一人が突発的な事案でも的確に判断し、対応する力をつける必要がある。

5 提言

- (1) 中核となる教職員を中心に、組織的な学校安全体制を構築しなければならない。
- (2) 校長会の組織力を最大限に生かすことで各校の危機管理能力を高めることができる。